



保健目標

いろいろな運動をしましょう

傷の応急手当

湿潤療法は創傷（特に擦り傷）、やけど、床ずれなどの傷に対し、「消毒をしない」「乾かさない」「水道水でよく洗う」を3原則として行う治療法です。モイストヒーリング、閉鎖療法、潤い療法とも呼ばれています。軽度のすり傷においては、もともと皮膚にいる細菌に対する耐性が高く、壊死組織や異物（土砂や小石）が傷になれば消毒しなくても化膿することはほとんど無いと考えられています。園でも怪我をした時は、水道水でよく洗い、消毒は行いません。その後は絆創膏やワセリンを塗布したガーゼを貼っています。子どもが受傷するほとんどの傷が軽傷なので、自宅で入浴する際には貼っているものを剥がして、普通に洗っても大丈夫です。傷が深い時などは、モイストヒーリングパッド（キズパワーパッド等）を貼る場合もありますが、傷を確認するために貼り替えても問題ありません。小さな怪我を沢山することで、大きな怪我を防ぐと言われています。怪我をしても手当を適切に行えば大丈夫です。



ほけんだより

第427号 令和5年9月1日 光明第三こども園

暦の上では秋ですが、まだまだ残暑が続いています。秋は運動会や年長児の高尾山登山などの行事もあり体を動かす機会が多くなる時期です。生活リズムを整えて元気に過ごしていきましょう。

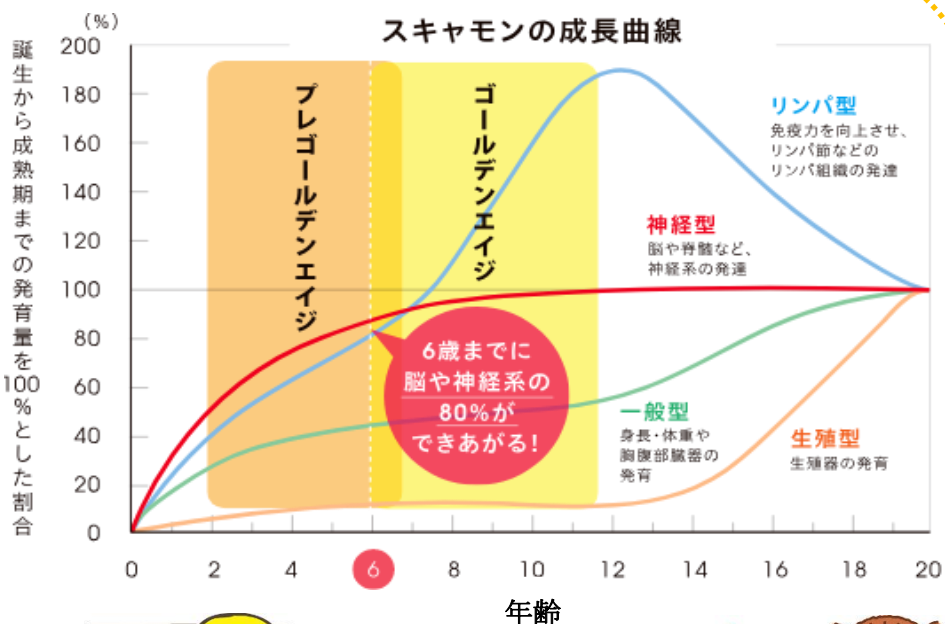


脳や神経は6歳までに80%が出来上がる

ゴールデンエイジとは、人間の一生のうちでもっとも運動神経が発達する時期。名前のおと「黄金の年代」と言われるだけあり、子どもの成長においてとても貴重な期間です。

具体的には、およそ9~12才頃の年代（小学3年~小学6年生頃）を指します。人間の発達過程の話などではよく使われる右記のグラフ。これを「スキヤモンの発育曲線」と言います。「神経型」と書かれた線（赤線部分）を見てわかるように、人の神経回路の発育量は5~6才までにおよそ80%、12才になる頃にはほぼ100%に達しています。ゴールデンエイジ手前の時期である3~8才頃は「プレゴールデンエイジ」と呼ばれ、この時期もゴールデンエイジの期間同様、子どもにとってとても大切です。

プレゴールデンエイジと呼ばれる時期から、いろいろな運動・動作を経験することがとても大切です。階段の上り下りなどの日常生活の中はもちろん、室内でのブロック遊びやおままごと、また砂場遊びなどの公園遊びなど子どもが興味を示すものはどんどん積極的に取り組ませてあげることが重要です。



鼻血が出た時の応急手当

鼻血が出た時はまず、椅子に座らせて少し前かがみの姿勢で小鼻を強めにつまむ。口の中に血がたまっていたら吐き出させる。鼻の付け根を冷やすのも良いでしょう。

鼻血が出た時に上を向かせると血がのどに流れて吐き気をもよおす場合があるので、頭は下に向かせましょう。

